



▲白石市情報センター「アテネ」
3階に構えた「宮城白石スタジオ」



▲「宮城白石スタジオ」の開所式にはたくさんの方が集まりました



▲未来のアニメーターを育成しています



画像提供：宮城県と旭プロダクション

宮城県のキャラクター「むすび丸」

宮城を代表するゆるキャラ「むすび丸」。県教育委員会が食育運動の一つとして推奨する啓発ソング「早寝早起き朝ごはん」運動のテーマ曲に合わせたダンスや仲間のキャラクターとともに、食材や観光など県の魅力を発信しています。このアニメーションの制作は、旭プロダクションが手掛けています。

デジタルコンテンツを生かしたまちづくり

白石の魅力再認識
戦国ブームの火付け役である『戦国BASARA』は、新たなメディア芸術を創造してくれました。このことは、アニメやゲームなど広く国民に親しまれているデジタルコンテンツの重

開設から3カ月が経過し、アニメーターの皆さんは、日々、パソコンと向き合いながら、いずれは「原画」も手掛けられる一流の制作者として活躍できるような、技術の向上を図っています。市外から転入されたアニメーターに、白石に住んでみた感想を聞くと、「自然と歴史が調和したきれいなまちですね」。また、これからの夢を聞くと、「白石を舞台にした作品を作ってみたい」「アニメを通して白石がもっと元気になるために役に立つ仕事をしたい」と話してくれました。

同スタジオの誕生は、アニメ産業を支える優れた若手アニメーターなどの人材確保、そして、雇用の場創出による本市の地域振興に大きな役割を果たしています。同社とは、白石初のアニメやアニメを生かしたイベントを開催するなど、デジタルコンテンツを生かしたまちづくりに取り組んでいく予定です。

伝統文化の活用や新たな文化の創造は、地域の人と人、人と文化をつなぎます。そして、観光や経済活動にも刺激を与えます。これらを結び付け地域の活性化を図り、小十郎のまち白石を市民の皆さんとともに全国に発信していきます。

新たな文化を育む
本市は、地域に根ざした歴史や文化、伝統を大切にしながら、デジタルコンテンツを生かして、楽しみながら白石の魅力を伝える活動を推進していきます。情報化が飛躍的に発展し、地域を越えた交流や移動が大幅に拡大しています。このような情報化の進展は、新たな価値を創造し、活力のある地域をつくるチャンスです。また、地域の文化の推進は、人々に元気を与え、地域を活性化させて、魅力ある社会をつくる力です。

白石の魅力を知り、白石の魅力を高めるとともに、郷土に対する愛着や誇りを育める環境を整える必要があります。

**旭プロダクション「宮城白石スタジオ」誕生!!
デジタルコンテンツのまち白石**

4月1日、アニメ制作会社「株式会社旭プロダクション」(山浦宗春社長：本社東京)が、白石市情報センター「アテネ」3階に「宮城白石スタジオ」を構えました。旭プロダクションは昭和48(1973)年に創設され、サンリオアニメシリーズやガンダムシリーズの撮影などの実績を持ちます。同社は本社を

除く国内初の拠点として、本市にスタジオを開設しました。「アニメに携わる人材は減少傾向にあり、人材の確保が難しくなっている。人材が流動的な東京と比べ、アニメーション関連の専門学校が多い宮城なら優秀な人材を集約できる」と開設の理由を挙げ、人材確保と育成に強い意欲を示しています。



▲スタジオの立地が決まり、協定書を手に笑顔の村井知事、山浦社長、風間市長(左から)

デジタルコンテンツを活用した協定書を締結

アニメーターなどの人材の空洞化
日本のアニメは文化的な観点からも優れた作品を世界に送り出しています。世界で放送されているアニメの約6割は日本で制作されたものです。

アニメ産業は、ゲーム産業と並んで、世界市場に通用するデジタルコンテンツ(※)産業の一つとして注目されています。しかし、アニメ業界の現場の内実は厳しく、製造業と同様、賃金の安い中国などへ人材が流出するなど、人材の空洞化は深刻な問題となっています。

※コンテンツ 内容、中身という意味の英単語。メディアが記録・伝送し、人間が鑑賞するひとまとまりの情報。具体的には、ニュース、小説、映画、テレビ番組、アニメ、ゲーム、マンガなど。デジタルデータ化されたものをデジタルコンテンツという。

未来のアニメーターの確保と育成
宮城白石スタジオは、東北各県出身の8人体制でスタート。3、4年後には30人ほどを採用していく予定です。